

石原伸晃「鎌倉市教育長推薦文」でまたまた大失敗

環境相



高級車・プレジデントを降りて自宅に入る伸晃氏。本誌の直撃に答えず、SPに守られながら足早に玄関へ

「正直言って大臣としては無能。省内を掌握できていない。むしろ、副大臣の井上信治(43)のほうが官僚の心をつかむのに長けていて、省内でも『どちらが大臣か分からない』と言われているほど」

環境省担当記者がそう嘲笑するのは、石原伸晃環境相(55)のことである。

就任後、目立った活躍がないばかりか、福島第一原発周辺の「手抜き除染」問題への対応を問われ、窮地に立たされている伸晃氏。この問題が明らかになった1月4日、彼は登庁しなかったばかりか「神奈川県内でゴルフをしていた」と「週刊朝日」に報じられる始末だ。

しかし、伸晃氏の失態はそれだけではない。思わぬことで菅義偉官房長官(64)を激怒させてしまったという。

ことの発端は、鎌倉市の教育長に関する人事案だ。鎌倉市は、教育長が昨年10月から不在という異例の状態が続いている。そこで、3月いっぱい東京都市並区立和田中学校校長を退任する代田昭久氏(47)に白羽の矢が立った。

「リクルート出身の代田氏は、和田中の2代目民間人校長として手腕を発揮。大手進学塾から派遣された塾講師による有料補習授業「夜スペシャル(夜スベ)」を先代校長より引き継ぎ、改革を進めてきた。しかし、独自の取り組みが評価される一方で、公共施設の目的外使用だとして住民らが杉並区などを相手取って訴

推薦書

先生

杉並区立和田中学校 代田昭久校長は、卓越した教育理念と情熱をもって、地域とともに歩む公立学校を理想に、同校の教育改革を推進してこられました。その手腕と実績を勘案すると、鎌倉市教育長として適任であると考えますので推薦します。

石原伸晃

石原伸晃

伸晃氏のサイン入り推薦書。代田氏いわく、文面は代田氏自身が伸晃氏に提案したものとはほぼ同じだという

一度は人事案を取り下げた松尾市長だが、3月24日、代田氏とともに会見に臨み、同じ人事案を6月議会まで再提出すると表明

■鎌倉市で実現される教育政策 2

ICT教育の推進



訟を起こすなど物議を醸していたんです」(教育問題に詳しいライター)

代田氏を鎌倉の新教育長候補として教育委員に選任するための人事案に自民党や共産党などの市議らが反対し、賛成派反対派は真つ二つに割れた。

その真つ最中の3月7日、代田氏を推薦する文書が4人の市議に手渡されていたことが議会の中で発覚した。その際は明かされなかったが、推薦書にサインをしていたのが他ならぬ伸晃氏なのである。本誌が入手した推薦書(左写真)には、代田氏を絶賛する言葉とともに伸晃氏の署名が書き添えられている。推薦書を受け取った自民系の市議が語る。

「3月3日に、代田氏から直接手渡されました。彼の改革者としての姿勢は評価できるが、『夜スベ』などのシステムに

は疑問が残るので、人事案には反対。人事案を提出した松尾崇鎌倉市長(39)は、みんなの党の流れを汲む人物なので、なぜ伸晃氏が推薦書を書くのか違和感があった。自民の大部が推薦することで私が賛成派になびくと思ったのでしょうか」

伸晃氏の「印籠」でも反対派市議の抵抗は収まらず、3月7日、代田氏は候補を辞退。人事案は取り下げられ、事態は一旦、収束した(その後、松尾市長は再提出を表明)。しかし、その裏では伸晃氏に火の粉が降りかかっていたのだ。

「推薦書の件を知った菅官房長官が『なんて余計なことをしてくれただんだ!』と、激怒したんです。菅氏は自民党神奈川県連会長でもあるため、伸晃氏が勝手に動いていたことも気に食わなかったのだでしょう。後日、伸晃氏は菅氏から『軽はずみな行動は慎んでほしい』と大目玉を食らったそうです」(自民党議員秘書)

「推薦書をその場で快諾」

以前から、「不用意な発言でマスコミに揚げ足を取られないように」と菅氏にクギを刺されていたという伸晃氏。いったいなぜ、推薦書にサインをしたのか。「伸晃氏にとってはあくまでも善意であり、教育長をめぐって議会が紛糾するとは思ってなかったのでしょう。ですが、菅氏にひと言相談していれば、こんなことにはならなかった。気まずい思いを味わった伸晃氏は、『知り合いを通じて推薦書を依頼され、サインしただけ』などと、お茶を濁そうとしているそうです」

(政治ジャーナリスト)

しかし、代田氏は本誌の取材に対してこう回答する。

「伸晃氏は以前からの知り合いで、私の活動を評価していただいていたので、教育長候補になった後、1月に直接お会いして推薦書を書いてもらえるかお願いしました。その場で快諾いただき、後日、伸晃氏の秘書さんから署名入り推薦書を受け取りました。推薦書を市議の方々に渡したのは、鎌倉の人たちに私のことをよく知ってもらいたいという思いからであり、圧力などではありません」

代田氏との関係や推薦書作成の経緯について尋ねるべく、帰宅した伸晃氏に声をかけた。しかし、こちらを「驚かすこと」もなく足早に玄関へと消えて行った。また、事務所にも問い合わせたが、期限までに回答は得られなかった。

その伸晃氏の口癖は、何かにつけ「これじゃあオヤジに怒られる」だそうだが、父の慎太郎氏(80・日本維新の会共同代表)はすでに怒る気力さえないようだ。

「2月下旬から都内の病院に入院していましたが、見舞客に『うなぎが食べたい』とねだるなど体調は良い。しかし、『維新に行ったのは失敗だった』などと弱気になっている。加えて、三男の宏高衆院議員(48)の公職選挙法違反疑惑まで報じられ、石原ファミリーは急速に弱体化しているのです」(自民党担当記者)

善意のつもりが惨事になった「推薦書事件」。この運の悪さが、石原ファミリーの行く末を暗示しているのか――。

PHOTO▶ 村上庄吾(右ページ)